

正本

副本受領

平成四年（ワ）第二〇七五号、平成五年（ワ）第二二二五号、平成六年（ワ）第二三〇八号公式陳謝等請求事件

原告 朴 榮 一 外
被告 国

報 告 書

右原告ら訴訟代理人 弁護士 新 谷 正 敏

一九九九年五月一七日

京都地方裁判所第一民事部合議係 御中

頭書事件について、当職が原告池 植（原告番号四五）から左記のとおり聴取したので、報告する。

記

甲B第 21 号証



第一 聴取した日・場所等

一九九七年一月二八日午前。

大韓民国光州市西区花亭洞 無等荘内。

通訳人 金 順愛

第二 聴取した内容

一 調査票について

甲第四三号証の調査票を今月の八日に作成した。学校に行っていないので、自分で字は書けないから、知人の「ソン チンレイ」さんに質問を読んでもらい、話したことを書いてもらった。ただ署名は自分でした。

自分の体験を日本の裁判所に行って話したいと思っている。

二 来日の理由、経過について（調査票質問番号5 参照）

正確な年月は覚えていないが、当時村に駐在していた日本人警官が自宅に文書を持ってやって来て、日本で働くために翌日役所へ出頭するように言われた。原告池は、出頭を断ると警官が母親を捕まえて苦しめると思った。翌日郡の役所に向かっ

て自分で家を出発した。郡の役所には、各面から一二名ずつの若者が来ており、原告池の村からは自分の外にもう一名来ていた。なぜ自分が選ばれたのかはわからない。日本に着いて同胞と話すと、みんな生活の苦しい者ばかりであったから、貧しい者を日本人警官と区長が相談して決めたのではないかと思う。

当時は、母と二人で、さほど面積が広いものではなかったが、田一二〇〇、畑四〇〇（単位は聴取不能）を耕作していた。しかし、原告池が日本へ連行された後、母一人では田畑を維持することができず、他の人に耕作を任せることになり、家計は苦しくなった、原告池がいなくなってからも、母は原告池の無事を祈ってくれていたと、後に母から聞いた。原告池は、母の祈りのおかげで浮島丸に乗っていても、無事に帰郷できたと思っている。

三 日本での仕事について（質問番号6）

雇用主ないし役所の当初の説明では、六ヶ月間働くということであったが、結局二年半ほど海軍軍属として日本で働かされた。働いていた場所は、青森県の三沢の飛行場だった。建物（格納庫？）の建築現場で資材を建物上部に運んだり、飛行場で土を運んだりさせられた。

給料は少しもらって、郵便局に貯金したが、引き揚げ時に引き出すことはできな

かった。食事の配給は少量だった。朝食が少なく、昼の弁当を早く食べてしまい、水を飲んで空腹を我慢していた。おかずでは、カボチャ、ジャガイモが皮をつけたまま出されていたのを覚えている。

四 敗戦の知らせを聞いたときの気持ち（質問番号8）

嬉しかった。しかし、日本軍が腹いせに朝鮮人を殺すとの噂が流れ、素直に喜ぶこともできなかった。

五 浮島丸に乗船するようになった理由・経過（質問番号9）

三沢で、朝鮮人の軍属の中隊長が、朝鮮に戻すから船に乗れと告げた。三沢にいた朝鮮人軍属は多分全員だと思うが、軍用トラックに乗り大湊に運ばれた。大湊では泊まることなく、着いてすぐ浮島丸に乗船した。

六 浮島丸に乗船したときの船内の状況（質問番号11）

船内にいた朝鮮人は、青森にいた人ばかりだったと思う。乗船者がたくさんいて、船倉には入れず船の一番上（甲板）にいた。寝るだけのスペースはあった。

七 浮島丸の行く先について（質問番号13）

朝鮮人軍属の中隊長が釜山へ行くと言っていたらしい、また当時日本海軍が怖がって、舞鶴に行くとの噂があったらしいが、自分はそのような発言や噂を当時は聞

いていない。

八 浮島丸が爆発したときの位置（質問番号14）

船首甲板の左舷側にいた。

九 浮島丸が爆発したときの様子（質問番号15）

浮島丸が完全に停止した後、日本軍人が二ないし三艘のボートを海面に降ろした直後に船は爆発した。それらのボートに軍人やその他の人が乗り込んだかどうかは見ていない。爆発したときに、何人かの乗船者が海に飛ばされていった。爆発により、船は中央部分で二つに折れ、中央部が海に沈む形になった。火は見なかった。

一〇 救助された経緯（質問番号16）

原告池は、泳げなかったので、旗の掲揚台の柱に掴まっていた。たくさんの乗船者が海に飛び込んだ。海には油が浮き黒くなっていた。海に飛び込んだ人が布団のようなものをつかんでいたが、布団状の物と共に沈んでいったことを覚えている。

調査票では、「完全に水没」となっているが、それは誤りである。救助された後、浮島丸が完全に水没したところは見ていない。船の両端はまだ浮いていた。

浮島丸の近くまで救助船が来て、その船に乗り移った。その船は、機械で動く船だった。海岸近くで小さなボートにまた乗り移った。自分と同じような状況で救助

された人は他にもいた。一九九二年に来日したとき、舞鶴で救助してくれた女性に会った。その女性の名前は覚えていない。謝礼を渡そうとしたが、その女性は受け取らなかった。

上陸してすぐ、海軍の寄宿舎のような所に行った。海軍は、古着の半袖の上着と足袋を支給した。その姿で帰国したが、恥ずかしかった。

一 被災に余より健康面などで苦労したこと（質問番号22）

浮島丸が爆発し水没したときの夢を見ると、頭痛、口が渇くなどの症状が今も続いている。医師からは、たくさん人の死を見たことにより精神状態が不安定になっているからではないかと言われている。浮島丸に友人の「金 泰植」が乗船しており、死亡したこともつらかった。

一二 日本国に謝罪と補償を求める理由、心情について（質問番号25）

ドイツは外国人戦争被害者に補償している。浮島丸事件のために自分は精神不安に悩まされ、日本に動員されたことで母一人が耕作するようになり、所有していた田畑を一部手放さざるを得なくなるという被害を被った。日本政府に対しては、自分が高齢者であり、一日も早く本件を解決してほしいと願っている。

以上